

非常に強い沈着を生じ、同時に肺野にも多数の弱い、小さな過剰沈着領域を認め、全体的に不均一であることが知れた。正常例では沈着が緩やかに変化するのが特徴的であった。結果は視覚的評価と一致し、肺機能検査値とも対応があるものと考えられた。

16. エロソール吸入肺シネシンチグラフィの簡略化

井沢 豊春 手島 建夫 平野 富男
蝦名 昭男 今野 淳 (東北大抗研・内)

気道粘液線毛輸送機構の評価に「放射性エロソール吸入肺シネシンチグラフィ」が有用であることはすでに報告した。視覚的評価に加え、定量的評価のため、①肺

内残留率 (LRR), ②肺泡沈着率 (ALDR), ③気道沈着率, ④気道残留率, ⑤気道クリアランス効率の5つの指標を設定し、その計算法をも報告した。このうち前二者が実測値、残りは実測値にもとづく計算値であるが、われわれの原法では、①はエロソール吸入後2時間計測、②は24時間後の反復計測から求めた。ただ計測時間が長すぎることで、反復計測が煩わしいなどの難があった。n=82の分析から、肺機能のFEV_{1.0}%と、①LRRから多重直線回帰すると、②ALDRが計算で求まることが知られた。LRR 120(分)もLRR 60(分)もほとんど同様のALDR予測を可能にし、 $ALDR = -47.03 + 0.44 \times FEV_{1.0}\% + 0.59 \times LRR_{60}$ の予測が確立された。計測時間を60分にし「シネシンチグラフィ」を得、LRR₆₀を求めALDRを計算すると、他の指標を求め、計測時間の短縮と反復計測省略が可能になる。